

# 家族介護における介護者－被介護者関係に関する研究の動向

臨床心理学コース 馬場 絢子

An overview of the studies on the relationship between a caregiver and a care-recipient within a family

Ayako BABA

The present study reviews the literature on psychology about the relationship between a caregiver and a care-recipient in a family caring for older adults. The factors associated with caregiver/care-recipient relationship were classified into three groups: caregiver (e.g., Burden, QoL, and care behavior), care-recipient (e.g., Symptoms), others (e.g., Institutionalization and intervention). The study results show that interventions and supports for caregivers focusing on caregiver/care-recipient relationship were insufficient despite of having a significant influence on many aspects of caregiving. Therefore, it is important to provide support to family caregivers to care for their loved ones in a good caregiver/care-recipient relationship without excessive burden and stress on caregivers, which also benefits the care-recipient.

## 目次

- 1 問題と目的
- 2 介護の現状と議論
  - A 日本における介護の現状
  - B 高齢社会・介護に関する議論
- 3 介護者－被介護者関係に関する研究の動向
  - A 心理学研究における介護者－被介護者関係
    - 1 相互性と文脈への注目
    - 2 介護者－被介護者関係の測定
  - B 介護者－被介護者関係の関連要因
    - 1 介護者要因
      - a 属性
      - b 介護負担・介護ストレス・精神的健康
      - c well-being・QoL
      - d 介護内容
      - e その他
    - 2 被介護者要因
    - 3 その他
- 4 介護者－被介護者関係に関する研究の課題と今後の展望

## 1 問題と目的

2017年現在、日本の総人口に占める65歳以上人口の割合すなわち高齢化率は27.7%である。介護保険制度における要介護または要支援の認定を受けた人（以下、要介護者等）は2015年度末で606.8万人にのぼって

り、介護ニーズの高さがうかがえる<sup>1)</sup>。要介護者はケアマネジャーが作成したケアプランにのっとり、訪問サービス・通所サービス・ショートステイ・施設サービス・福祉用具貸与といった多様な介護サービスを受けることができる<sup>2)</sup>。しかし日常的に要介護者等に寄り添い、身の回りの世話をしたり心の支えとなったりするのは、多くの場合家族、特に主介護者であろう。

介護は、される人にとってもする人にとっても生活に大きな影響を与えうる営みである。たとえば2011年10月から2012年9月までの1年間で介護を理由とした離職者は101.1千人であり、いわゆる介護離職の問題として注目を集めている<sup>1)</sup>。介護離職は企業や国の損失となるのみならず、介護者個人にとっても経済的困難や介護終了後の再就職困難といった問題に直面する可能性がある。また2016年度に擁護者（高齢者の世話をしている家族、親族、同居人等）による高齢者虐待であると判断された相談・通報件数は16,384件にのぼり<sup>3)</sup>、家族であるはずの介護者が要介護者等の生活を脅かす存在となる危険性を示している。

こうした現状から、介護を要する高齢者の暮らしを支えるためには、高齢者本人を対象とする介護サービスに加えて、高齢者本人と家族関係にあり介護の担い手でもあるという多重関係を築いている家族介護者を支えるサービスが必要と考えられる。しかし日本では介護者支援を目的とした法制度は存在せず、病院や施設での家族会や地域包括支援センターでのイベント、ケアラズカフェやオレンジカフェ、NPO法人など

が提供するサービス等、地域レベル・民間レベルの支援に依存している状態である。その背景には、家族介護者と介護を要する高齢者との関係性の様態や、その関係が介護という営みに対して持つインパクト、さらにこれをふまえた介入の必要性が十分に理解されていない状況があると考えられる。

そこで本稿では、日本における介護の現状と学術的議論について概説したのち（2章）、先行研究において検討されてきた介護者－被介護者関係およびその関連要因についてまとめる（3章）。最後に心理学研究の今後の課題と展望を考察し、介護者－被介護者関係の理解に基づく介護者・被介護者への心理的援助の可能性を示すことを目的とする（4章）。なお以下では、介護保険制度における要介護認定を受けているか否かを問わず介護の受け手となる高齢者を「被介護者」と表現する。

## 2 介護の現状と議論

### A 日本における介護の現状

2012年の介護保険法改正以降、厚生労働省は「高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築」を推進している。地域包括ケアシステムとは、医療、介護、いつまでも元気に暮らすための生活支援や介護予防、そして住まいが一体的に提供されるシステムのことである<sup>4)</sup>。このうち住まいを支えるのは家族介護者である。

要介護者等からみた主な介護者の続柄は6割弱が同居している人であり、そのうち25.2%が配偶者、子が21.8%、子の配偶者が9.7%となっている。主介護者の年齢は、男性で70.1%、女性で69.9%が60歳以上であり、いわゆる「老老介護」も少なくない<sup>1)</sup>。介護者の記述統計からは、長年連れ添った配偶者や唯一無二の親子といった特別な関係性の元に介護が行われていることがうかがえる。

### B 高齢社会・介護に関する議論

加齢や高齢社会に関する学術分野としては老年学(gerontology)がある。老年学は心理学・社会学・生物学・医学など様々な見地を包括する学際領域であり、高齢者の心身の健康、介護予防や介護サービス、閉じこもりと社会的参加、地域での見守り、ICTの利

活用など様々な議論が展開されている。このうち心理学は、SOC理論として知られる選択的最適化とそれによる補償(selective optimization with compensation)や、高齢期において世界観や暮らし方が質的に変化する現象に注目した老年の超越理論といった様々な知見を通じて、サクセスフルエイジングのモデルを問い直し続けてきた<sup>5) 6)</sup>。また回想法など高齢者への介入についての研究も蓄積されてきている<sup>7)</sup>。

介護に関する心理学研究が扱うテーマは、認知症者の理解や認知症に伴う行動・心理症状(Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia)への心理的介入、介護職の被介護者理解やバーンアウトなどストレスに関するもの、家族の介護負担・QoL・家族による認知症の受容プロセスなど多岐にわたる。

介護者－被介護者関係については、アタッチメント<sup>8) -10)</sup>や親密性といった形で、介護者による介護の意味づけや支え・困難や危機の要因として記述されているものが多く見られる<sup>11) -14)</sup>。さらに親子・義親子・夫婦関係といった特定の続柄に限定して介護者－被介護者関係を論じている研究も多く、Colin<sup>15)</sup>は親子において何らかの立場の逆転が生じることを指摘している。特に母と娘の介護関係に焦点を当てた研究は国内外で散見され、関係の近さに基づく独特の体験や困難があることが指摘されている<sup>16) 17)</sup>。Spruytte<sup>18)</sup>は、介護者が経験する介護負担といった一面的な介護理解にとどまらず、介護者－被介護者関係に注目する必要性を述べている。

## 3 介護者－被介護者関係に関する研究の動向

これまで述べてきたように、介護を要する高齢者および介護者への心理的支援を考える上で介護者－被介護者関係について理解することは重要である。そのためには多面的な知見の蓄積を整理することが有用であろう。本章では高齢者介護の文脈における介護者－被介護者関係に関する研究について、「心理学研究における介護者－被介護者関係(A節)」「介護者－被介護者関係の関連要因(B節)」にまとめ、概観する。

なお、対象となる文献は2018年9月20日から27日にかけて検索を行った。国内の文献についてはCiNiiを利用し、検索式を「介護者被介護者 AND 関係」OR「介護者要介護者 AND 関係」として得られた実証的な研究のうち学会抄録を除いた4本を考察対象とした。海外文献に関してはEBSCO hostを利用し、PsycINFO、PsycARTICLESおよびMEDLINEから検索を行った。

“caregiver care-recipient relationship”をキーワードとして全文検索（入力した語順どおりに検索）を行い、過去10年間（2008年以降）に発行された文献に絞り込んだところ64件が該当した。表題・要旨を読み、家族介護者と高齢の被介護者との関係に焦点を当てていないもの（高齢者介護を対象としていないもの、介護職と被介護者との関係を扱ったもの、特定の疾患に注目したもの、等）や文献研究を除いた27件が分析対象となった。これらの文献を中心に引用文献を辿ることで上記の検索結果に含まれなかった研究も適宜考察対象に加えた。

## A 心理学研究における介護者－被介護者関係

### 1 相互性と文脈への注目

従来の家族介護に関する議論では介護することとされることは一般的に別々に扱われており、インフォーマルな介護・援助は健康な介護者から慢性疾患や障害のある被介護者へ、という一方向的なものであると考えられていた<sup>19)</sup>。しかし、社会学研究によりインフォーマルケアの力動が相互的なものであることが明らかにされてきた<sup>20)</sup>。Lingler et al.<sup>21)</sup>はこうした従来の一方向的な家族介護ダイアドとは異なる3つの事例を示した。それは、高齢で慢性疾患のあるカップルができないことを互いに補い合う相互関係的な事例、1人の主介護者でなく複数の家族や他のインフォーマルな介護者とともにいる被介護者の事例、ある人に対しては介護者である人が別の人に対しては被介護者であるような家族介護連鎖が見られる事例といったユニークなものである。Graham<sup>22)</sup>は、介護関係を“dynamic co-constructions built upon everyday events, interactions, environments, and disease progression” (p. 335)（日常的な出来事、相互作用、環境および病気の進行の上に成り立つ力動的な共同構築物 [著者訳]）と表現している。たとえば介護者が認知症の被介護者と互いに尊重し合い感受性をもつ場合は協力的な介護関係が成り立つ一方で、信頼関係や慈悲が欠如している場合には非現実的な期待やネガティブな相互性が生じる。このように介護者－被介護者関係は、相互的なプロセスとして理解されるべきである。

さらに介護者－被介護者関係は介護以前からの夫婦関係・親子関係・友人関係といった文脈と地続きである。Bogard<sup>23)</sup>はパーキンソン病患者の介護体験に関する現象学的研究において、テーマの1つとして被介護者や他者との関係の変化を挙げている。被介護者とのコミュニケーションが難しくなったりケアの要請が

高まったりすれば、被介護者を前にしながら孤独を感じることもある。ボタンを閉める、ネクタイを結ぶ、といった介護行動は身体接触の機会となる一方で症状により性的関係がもてなくなることもある。また被介護者の性格に変化が生じればこれを受け入れる必要がある。こうした関係の変化は、介護以前の文脈が存在するがゆえの経験である。国内では井口<sup>24)</sup>が、介護者が被介護者に対して強く介護・ケアを志向する「無限定性」に注目し、夫婦や親子といった個別的な文脈ゆえに割り切った形で介護を行うことが困難であることを示している。

このように介護者－被介護者関係は二者の相互性と介護以前からの文脈の上に成り立つ複雑な構成概念であり、事例研究の蓄積や質的な理解が肝要である。

### 2 介護者－被介護者関係の測定

介護者－被介護者関係を量的に測定する場合、どのような側面に注目するかによって様々な方法が用いられている。最も単純なものは、介護者が被介護者にとって親であるか配偶者であるか子であるかといった続柄にのみ注目するものである<sup>25)</sup>。大城・国吉・田中<sup>26)</sup>は介護者の被介護者との人間関係を「一緒にいて楽しいか。」「要介護者を好きか。」「わがままで気むずかしいところがあるか。」「かつていじめられたことがある。」という4項目3件法で測定した。日本語の尺度としては近森<sup>27)</sup>の関係性尺度（8項目）があるが、信頼性の検証は不十分である。

海外では、配偶者同士の関係満足度に注目し、the Family Assessment Measure<sup>28)</sup>からダイアド関係に関する因子（“communication,” “affect expression,” “involvement”）を利用している研究が見られた<sup>29) 30)</sup>。同様に介護関係満足度を測定する尺度としてCaregiving Appraisal Scaleの下位尺度“Caregiving Relationship Satisfaction”を用いている研究も存在した<sup>31) 32)</sup>。また介護者の被介護者との情緒的な近さに注目した研究ではRelationship Closeness Scale<sup>33)</sup>が用いられていた<sup>34) 35)</sup>。家族機能の尺度であるthe McMaster Family Assessment Device<sup>36)</sup>を利用している研究も存在した<sup>37)</sup>。介護者－被介護者関係の相互性に注目してthe Mutuality Scale<sup>38)</sup>やThe 10-item Mutual Communal Behavior Scale<sup>39) 40) 41)</sup>を用いた研究も見られた<sup>42) 43)</sup>。アタッチメントや自己モデルに注目した研究ではBartholomew & Horowitz (1991)<sup>44)</sup>の4カテゴリーモデル（“secure,” “dismissing,” “preoccupied,” “fearful”）が用いられていた<sup>45)</sup>。介護者－被介護者関係の質に注目した研究では、University of Southern California Longitudinal Study of Three-Generation Families

measure of positive affect<sup>46)</sup> から 4 項目 (一般的な近さ、コミュニケーション、人生観の類似性、一緒にいる程度) を利用していた<sup>47)</sup>。

このように介護者－被介護者関係には様々な測定方法があり、研究の目的に応じて適切な尺度を採用する必要がある。

## B 介護者－被介護者関係の関連要因

上記のような介護者－被介護者関係の測定方法は、関連要因の量的検証を可能にしてきた。本節では介護者要因、被介護者要因、その他に分けて、介護者－被介護者関係との関連が指摘されている要因を紹介する。

### 1 介護者要因

#### a 属性

まずは介護者のデモグラフィックデータと介護者－被介護者関係との関連に関する研究について述べる。大城・国吉<sup>48)</sup> は、介護者－被介護者関係は介護者の続柄ではなく年齢によって異なり、50－60歳の介護者において被介護者との人間関係が悪いことを明らかにした。これにより嫁姑関係や老老介護といったステレオタイプな理解とは異なる、質的な人間関係理解の必要性が示された。Buchanan<sup>49)</sup> は多発性硬化症介護に注目し、介護者が被介護者の配偶者であることと介護者の教育水準が高いことが介護による介護者－被介護者関係強化と負の関連をもっていることを明らかにした。

#### b 介護負担・介護ストレス・精神的健康

介護者－被介護者関係と介護負担やストレスとの関連に関する報告は多く見られた。介護者に被介護者との関係の近さを 3 件法で尋ねた研究では、とても近いと答えた介護者の介護負担・介護ストレスが低く、近くないと答えた介護者の介護負担・ストレスの平均が最も高いことが明らかになった<sup>50)</sup>。前述の多発性硬化症患者の介護者を対象とした研究では、介護による介護者－被介護者関係強化が介護負担感と負の関連をもっていることが示された<sup>49)</sup>。認知症介護者が高い相互性を感じていることは介護負担減少を予測し、相互性の改善もまた介護負担減少と関連していた<sup>51)</sup>。

なお介護者－被介護者関係は独立変数でなく媒介変数・調整変数として介護負担・ストレスと関連していることも示されている。たとえば介護関係への満足度は、被介護者の問題行動についての介護者の帰属 (internality, intentionality, responsibility, and controllability) と介護ストレスとの関連を媒介していた<sup>52)</sup>。また介護者－被介護者関係の質は被介護者の障

害の程度と負担感との関連を調整しており、介護者－被介護者関係の質が高い場合には障害の悪化が大きな負担と感じられていた<sup>47)</sup>。この知見からは良好な介護者－被介護者関係を築いているからこそ介護者にとって被介護者の状態悪化が受け止め難いものになっていることがうかがえる。

介護者－被介護者関係を質的に捉えた研究では、介護負担が低く介護への満足感を示す介護者は、現在の介護者－被介護者関係も過去の関係も愛情深い言葉で表現することを示した。このような介護者は被介護者には見返りを求められないと理解しており、介護者－被介護者関係において失われたものよりもまだ残っているものに注目していたという<sup>53)</sup>。

精神的健康についてはCrist<sup>54)</sup> が、ストレスは介護者－被介護者関係の相互性によって媒介され抑うつと関連することを報告している。また被介護者の問題行動は介護者－被介護者関係の質によって媒介され、介護者の役割へのとらわれや抑うつと関連することも示されている。すなわち、被介護者が問題行動を起こすとき、介護者－被介護者関係の質が悪くなるために介護者においては役割へのとらわれがおきたり抑うつが高まったりするということである<sup>47)</sup>。介護役割の重要性と抑うつとの関連に対する介護者と被介護者の親密な結びつきの調整効果を検証した研究では、有意な結果は得られなかったものの、家族介護者の抑うつ潜在的予防因子として親密な結びつきについて考慮する有用性が示された<sup>55)</sup>。

さらに介護者－被介護者関係それ自体も精神的健康との関連が指摘されている。続柄レベルでは、嫁が義父を介護するときは嫁が義母を介護したり娘息子が母親を介護したりするときよりも精神的健康が有意に低いことや、介護者が配偶者であるときその他の続柄に比して抑うつ度が高いこと、在宅介護をする配偶者や子は長期的に見れば抑うつ症状が高まったり生活機能が低下したりすることなどが明らかになっている<sup>25)</sup> <sup>56)</sup> <sup>57)</sup>。また介護関係への満足度が低いときは抑うつ症状が強く健康度が低い一方で、相互性が高い介護者は抑うつが低い傾向にあった<sup>32)</sup> <sup>55)</sup>。

#### c well-being・QoL

well-beingや生活の質 (Quality of Life; 以下, QoL) といった全人的な介護者要因と介護者－被介護者関係との関連を示した研究も存在した。まず続柄レベルでは、介護者の続柄がきょうだいである場合、親や配偶者である場合と比べて、well-beingが介護の影響をあまり受けないことが示された<sup>58)</sup>。認知症介護者が

配偶者である時well-beingが低いという結果もこれを否定しない<sup>55)</sup>。インフォーマルケアに従事する介護者のwell-beingを測定・評価するCarerQol-VASを用いた研究では、介護者と被介護者が義親子関係であるときwell-beingが低かった<sup>59)</sup>。施設入居というイベントに注目すると、介護者が配偶者であるとき入居後の介護者のwell-being（介護負担感・抑うつ度）低下につながる事が明らかになった<sup>60)</sup>。

介護者－被介護者関係の様々な側面に注目した研究も見られた。たとえば介護者－被介護者関係の近さを扱った研究では、被介護者との関係を近くないと感じている介護者のQoLは低く、とても近いと感じている介護者のQoLは高いことが明らかになった<sup>50)</sup>。相互性の高さは社会的刺激となる楽しい出来事の数や頻度と関連しており、相互性の改善と社会的刺激の上昇も関連していた<sup>51)</sup>。このことから介護者－被介護者関係は二者に閉じたものではないことがうかがえる。婚姻歴やアルツハイマー発症前の関係性の質といった文脈に注目したKramer<sup>61)</sup>は、介護ストレスを統制してもなおこれらが生活の質を予測することを示した。アタッチメントに焦点を当てた研究では、回避型・不安型のアタッチメントスタイルをもつ介護者のwell-beingが低いことが明らかになった<sup>62)</sup>。

#### d 介護内容

介護者－被介護者関係と介護の質や量との関連についての報告も多かった。続柄レベルでは、配偶者に対しては道具的サポートを提供する意欲が高く、きょうだいにはポジティブな感情反応（思いやり・同情・あたたかさ・心配）を示すことが報告された<sup>63)</sup>。感情反応としては、共感と介護者－被介護者関係の歴史との関連も指摘されている<sup>64)</sup>。

実際の介護行動としては、潜在的に害を及ぼしうる介護行動（potentially harmful caregiving behavior）や模範的介護（exemplary care）と過去の介護者－被介護者関係との関連が指摘されているほか<sup>43)</sup>、自己モデルとの関連も示されている<sup>45)</sup>。このようなアタッチメントスタイルと介護行動との関連については多く研究されており<sup>65)–67)</sup>、介護行動をサポートする上で介護ダイアドの相互性や文脈を理解することの重要性がうかがえる。介護者による生活能力評価に注目した国内の研究では、介護者が実子である場合に「こうあってほしい」という希望や思いやりのある表現がなされ、その介護者の評価を聞いた第三者には過大評価される可能性が示された<sup>68)</sup>。介護行動のもっとも不適切な形としては高齢者虐待や介護殺人未遂が挙げられるが、こ

の背後に密着した排他的な共生関係といった介護者－被介護者関係がある事例も報告されている<sup>69)</sup>。

数々の文献を引用しながら、介護は過去の関係を反映して模範的なものとなったり、時には虐待につながるような不適切なものとなったりすることを示してきた。さらに、未来の関係を目を向けてみれば、介護期間・介護時間の増加と介護者－被介護者関係の強化に正の関連を認めている研究も存在する<sup>49)</sup>。介護には従来からの関係を強める可能性もあるのである<sup>70)</sup>。

#### e その他

異なる視点として、Williams<sup>71)</sup>は介護者による被介護者の転倒恐怖が介護者－被介護者関係に影響している可能性を示唆しており、今後の検討が求められる。

#### 2 被介護者要因

被介護者要因としては認知機能低下や問題行動といった認知症状に関するものが見られた。介護者－被介護者関係の近さに注目した研究では、介護者－被介護者関係が近い場合に認知機能低下が遅いことが示された。なおこの効果は介護者が配偶者であるとき特に大きかった<sup>35)</sup>。加えて介護者－被介護者関係の相互性向上は、認知症者のアグレッション低下と関連していた<sup>42)</sup>。一方介護者の回避型アタッチメントスタイルや被介護者の不安型アタッチメントスタイルは、認知症による問題行動の悪化と関連していることも明らかにされている<sup>62)</sup>。

抑うつについても、バランスのとれた介護者－被介護者関係が症状低減と関連していることが示唆された<sup>72) 73)</sup>。被介護者は介護者に依存しているため、介護者－被介護者関係は本質的に不均衡である。そこで物的・社会的・心理的な交換に注目したところ、アフリカ系の被介護者において社会的な交換が抑うつ症状と関連していたというのである。

多発性硬化症介護による介護者－被介護者関係強化と被介護者の健康状態悪化には負の関連があったが、症状によって被介護者の日常生活における独立性が妨げられているという認識とは正の関連をもっていた<sup>49)</sup>。

被介護者要因との関連を示した介護者－被介護者関係に関する心理学研究は多くはないものの、症状の進行といった重大な影響力が示された。

#### 3 その他

Rattinger et al.<sup>34)</sup>は、介護者－被介護者関係が近いほうが介護コストが低いことを明らかにした。相互性の高さは被介護者が施設に入居するまでの介護期間の長さに関連しており<sup>57)</sup>、被介護者を施設に入居させた介護者は家族機能を低く評価していた<sup>37)</sup>。さらに入

居してからも、介護者－被介護者関係の近さは認知症者の施設への適応のよさと関連するという<sup>33)</sup>。介護者－被介護者関係はサービス利用に関する希望や意思決定・その後の適応とも関連しているのである。

介護者－被介護者関係に注目した介護者への介入としては、Qualls & Williams<sup>74)</sup> が家族システムの枠組みの中で介護を体系的に評価し介護者を指導するモデルを提案しているが、さらなる蓄積が必要である。

#### 4 介護者－被介護者関係に関する研究の課題と今後の展望

ここまで、介護者－被介護者関係に関する心理学研究の動向について概観してきた。本章では研究全体をまとめ、介護者－被介護者関係に関する心理学研究の課題と今後の展望について述べる。

介護者－被介護者関係は介護者の続柄や両者の居住形態といったカテゴリカルなレベルから、満足度・近さ・相互性といった介護中である現在の関係レベル、アタッチメントスタイルや関係の歴史といった時間軸を内包したレベルまで様々な捉え方がされていた。これは、家族の歴史とも重なりながら展開されてきた関係性を介護というフェーズにおいて改めて把握し、あまつさえ変数化することの難しさを反映していると考えられる。

この茫漠とした概念が様々な形で介護に影響を及ぼしている可能性がある。被介護者との関係によって介護負担・ストレスやQoLが増減することは想像に難くないが、介護者の精神的健康とも関連していることが示された。また介護の質や不適切介護との関連は被介護者の暮らしにも影響を与えるだろう。実際に介護者－被介護者関係は被介護者の認知症状や健康状態とも関連していた。すなわち、介護を含む相互行為の中で更新されていく介護者－被介護者関係は、その相互行為の質と関連するとともに介護者と被介護者双方の健康や生活とも関連しているのである。さらに介護者－被介護者関係は介護コストやサービス利用・適応とも関連しており、介護という営みにおいて中心的な役割を果たしているようにも見える。しかし介護者－被介護者関係をターゲットとした心理的介入に関する研究は寡少であった。

以上を踏まえて浮かび上がってきた今後の課題は、介護者－被介護者関係の維持・改善を目的とした心理的援助の考案である。すでに述べてきた通り、介護者－被介護者関係の詳細な理解には個別的な文脈と相互

性の把握が肝要である。よって、前章で紹介した介護者－被介護者関係の様々な側面に注目した尺度の活用に加え、介護者・被介護者それぞれのナラティブに耳を傾けたり相互作用場面を観察したりすることの有用性も検討すべきである。各ケースの状態に応じて、現状の介護者－被介護者関係を維持もしくは改善に向けた介入をデザインしていく必要がある。この際、本稿にて整理した介護者－被介護者関係の関連要因を参照し心理教育を行うことができるであろう。また介護者－被介護者関係が介護以前からの関係性の上に成り立つことに注目し、介護開始前や介護初期における予防的な介入の可能性も考えられる。

しかし既に述べた通り、介護者－被介護者関係はしばしば排他性・閉鎖性であり、客観的には負担が高いにもかかわらず援助を志向しない無限定性や、孤立状況で高齢者虐待などの不適切介護につながることもある<sup>24) 69)</sup>。よって、介護の密室化を防ぎ援助ニーズを掘り起こすアウトリーチ活動や通院時・要介護認定時などを活用した介護者－被介護者関係のアセスメントについても検討の余地があると考えられる。

介護者－被介護者関係を形成する介護者は、被介護者を中心とする介護システムにおいて重要な一因である。よって介護者が他の家族や地域とつながったり、他者の援助を受け介護の責任を共有したりすることができるよう、介護の文脈のみならずヘルスケアの文脈、そして家族の文脈においても多面的に理解され、介護システムに統合される必要がある<sup>75)</sup>。これは介護者にとっても、介護者－被介護者関係にとっても、被介護者にとっても有用であろう。このためにも心理職には地域包括ケアシステムにおけるさらなる活躍が求められる。

#### 引用文献

- 1) 内閣府 2018. 「平成30年版高齢社会白書（概要版）（PDF版）」 Retrieved from [http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2018/gaiyou/30pdf\\_indexg.html](http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2018/gaiyou/30pdf_indexg.html) (2018年9月30日)
- 2) 厚生労働省 2018. 「介護保険制度の概要」 Retrieved from [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi\\_kaigo/kaigo\\_koureisha/gaiyo/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/gaiyo/index.html) (2018年9月30日)
- 3) 厚生労働省 2018. 「平成28年度「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」」 Retrieved from <https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000196989.html> (2018年9月30日)
- 4) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング 2013. 「＜地域包括ケア研究会＞地域包括ケアシステム構築における今後の検討のための論点」 Retrieved from [http://www.murc.jp/uploads/2013/04/koukai130423\\_01.pdf](http://www.murc.jp/uploads/2013/04/koukai130423_01.pdf) (2018年9月30日)

- 5) Baltes, P.B. 1984. "New Perspectives on the Development of Intelligence in Adulthood: Toward a Dual Process Conception and a Model of Selective Optimization with Compensation." In P.B. Baltes, & O.G.Jr.Brim (eds.) *Life-Span Development and Behavior* (Vol.6, 33-76.). Massachusetts: Academic Press.
- 6) Tornstam, L. 1989. "Gero-transcendence; A Meta-theoretical Reformulation of the Disengagement Theory." *Aging: Clinical and Experimental Research*, 1: 55-63.
- 7) Butler, R. N. 1963. "The life review: An interpretation of reminiscence in the aged." *Psychiatry* 26: 65-75.
- 8) Bowlby, J. *Attachment and loss, Vol. 1, Attachment*. New York: Basic Books, 1969. (Revised edition, 1982).
- 9) Bowlby, J. *Attachment and loss, Vol. 2, Separation*. New York: Basic Books. 1973.
- 10) Bowlby, J. *Attachment and loss, Vol. 3, Loss*. New York: Basic Books. 1980.
- 11) 菅沼真樹 2002. 「愛着理論から見た老年期」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第41巻, pp. 311-317.
- 12) 鈴木規子・谷口幸一・浅川達人 2004. 「在宅高齢者の介護をになう女性介護者の「介護の意味づけ」の構成概念と規定要因の検討」『老年社会科学』第26巻, 第1号, pp. 68-77.
- 13) 天谷真奈美・大塚真理子・島田広美・星野純子・青木由美恵 2002. 「痴呆性高齢者を介護する娘介護者の危機」『埼玉県立大学紀要』第4巻, pp. 87-93.
- 14) 上山千恵子・田場真理・守本とも子 2016. 「認知症高齢者を介護する娘介護者の体験：介護生活の中で体験する困難と、介護生活の支えとなるもの」『奈良学園大学紀要』第5巻, pp. 67-69.
- 15) Colin, V. L. *Human attachment*. New York: McGraw-Hill, 1996.
- 16) Ward-Griffin, C., Oudshoorn, A., Clark, K., & Bol, N. 2007. "Mother-Adult Daughter Relationships Within Dementia Care." *Journal of Family Nursing* 13(1): 13-32.
- 17) 横瀬利枝子 2009. 「介護施設利用に到るプロセスへの一考察：認知症の母親と娘の関係性の視点から」『生命倫理』第19巻, 第1号, pp. 60-70.
- 18) Spruytte, N., Van Audenhove, C., Lammertyn, F., & Storms, G. 2002. "The quality of the caregiving relationship in informal care for older adults with dementia and chronic psychiatric patients." *Psychology and Psychotherapy*, 75(3): 295-311.
- 19) Lyons KS, Zarit SH, Sayer AG, Whitlatch CJ. 2002. "Caregiving as a dyadic process: perspectives from caregiver and receiver." *Journal of Gerontology: PSYCHOLOGICAL SCIENCES* 57(3): 195-204.
- 20) Feld S, Dunkle RE, Schroepfer T, Shen HW. 2006. "Expansion of elderly couples' IADL caregiver networks beyond the marital dyad." *The International Journal of Aging and Human Development* 63(2): 95-113.
- 21) Lingler, J. H., Sherwood, P. R., Crighton, M. H., Song, M.-K., & Happ, M. B. 2008. "Conceptual challenges in the study of caregiver-care recipient relationships." *Nursing Research* 57(5): 367-372.
- 22) Graham, J. E., & Bassett, R. 2006. "Reciprocal relations: The recognition and co-construction of caring with Alzheimer's disease." *Journal of Aging Studies* 20: 335-349.
- 23) Bogard, C. L. 2011. "The experience of care-giving for a person with Parkinson's disease." *Dissertation Abstracts International: Section A: Humanities and Social Sciences* 71(7-A): 2316.
- 24) 井口高志 2002. 「家族介護における「無限定性」——介護者—要介護者の個別的な関係性に注目して」『ソシオロゴス』第26巻, pp. 87-104.
- 25) Iwata, N., & Horiguchi, K. 2016. "Differences in caregivers' psychological distress and associated factors by care recipients' gender and kinship." *Aging and Mental Health* 20(12): 1277-1285.
- 26) 大城トモ子・国吉和子・田中寛二 2004. 「老人介護者の生活実態調査・研究報告(1)」『沖縄大学地域研究所所報』第31巻, pp. 15-26.
- 27) 近森栄子 1999. 「在宅ケアを提供される高齢者の特性と家族の負担感との関係」『神戸市看護大学紀要』第3巻, pp. 101-112.
- 28) Skinner, H. A., Steinhauer, P. D., & Santa-Barbara, J. 1983. "The Family Assessment Measure." *Canadian Journal of Community Mental Health* 2(2): 91-105.
- 29) Williamson, G. M., & Schulz, R. 1990. "Relationship orientation, quality of prior relationship, and distress among caregivers of Alzheimer's patients." *Psychology and Aging* 5(4): 502-509.
- 30) Monin, J. K., Levy, B., Doyle, M., Schulz, R., & Kershaw, T. 2017. "The impact of both spousal caregivers' and care recipients' health on relationship satisfaction in the Caregiver Health Effects Study." *Journal Of Health Psychology* 1359105317699682.
- 31) Struchen, M. A., Atchison, T. B., Roebuck, T. M., Caroselli, J. S., & Sander, A. M. 2002. "A multidimensional measure of caregiving appraisal: Validation of the caregiver appraisal scale in traumatic brain injury." *Journal of Head Trauma Rehabilitation* 17(2): pp. 132-154.
- 32) Hui, S. K. A., Elliott, T. R., Martin, R., & Uswatte, G. 2011. "Family caregivers' attributions about care-recipient behaviour: Does caregiver relationship satisfaction mediate the attribution-distress relationship?" *British Journal of Health Psychology* 16(3): pp. 642-659.
- 33) Whitlatch, C. J., Schur, D., Noelker, L. S., Ejaz, F. K., & Looman, W. J. 2001. "The Stress Process of Family Caregiving in Institutional Settings." *The Gerontologist* 41(4): pp. 462-473.
- 34) Rattiner, G. B., Fauth, E. B., Behrens, S., Sanders, C., Schwartz, S., Norton, M. C., Corcoran, C., Mullins, C. D., Lyketsos, C. G., & Tschanz, J. A. T. 2016. "Closer caregiver and care-recipient relationships predict lower informal costs of dementia care: The Cache County Dementia Progression Study." *Alzheimer's & Dementia: The Journal of the Alzheimer's Association* 12(8): pp. 917-924.
- 35) Norton, M. C., Piercy, K. W., Rabins, P. V., Green, R. C., Breitner, J. C. S., Østbye, T., Corcoran, C., Welsh-Bohmer, K. A., Lyketsos, C. G., & Tschanz, J. T. 2009. "Caregiver-recipient closeness and symptom progression in alzheimer disease. the cache county dementia progression study." *Journals of Gerontology - Series B Psychological Sciences and Social Sciences* 64(5): 560-568.
- 36) Epstein, N. B., Baldwin, L. M., & Bishop, D. S. 1983. "THE McMASTER FAMILY ASSESSMENT DEVICE." *Journal of Marital and Family Therapy* 9(2): 171-180.
- 37) Spitznagel, M. B., Tremont, G., Davis, J. D., & Foster, S. M. 2006. Psychosocial Predictors of Dementia Caregiver Desire to Institutionalize: Caregiver, Care Recipient, and Family Relationship Factors. *Journal of*

- Geriatric Psychiatry and Neurology* 19(1): 16-20.
- 38) Archbold, P. G., Stewart, B. J., Greenlick, M. R., & Harvath, T. 1990. Mutuality and preparedness as predictors of caregiver role strain. *Research in Nursing & Health*, 13(6): 375-384.
- 39) Williamson GM, Schulz R. 1995. "Caring for a family member with cancer: Past communal behavior and affective reaction." *Journal of Applied Social Psychology* 25: 93-116.
- 40) Williamson, G. M., Shaffer, D. R., & Schulz, R. 1998. "Activity restriction and prior relationship history as contributors to mental health outcomes among middle-aged and older spousal caregivers." *Health Psychology* 17: 152-162.
- 41) Williamson, G. M., Shaffer, D. R., & the Family Relationships in Late Life Project. 2001. Relationship quality and potentially harmful behaviors by spousal caregivers: How we were then, how we are now. *Psychology and Aging* 16: 217-226.
- 42) Ball, V., Snow, A. L., Steele, A. B., Morgan, R. O., Davila, J. A., Wilson, N., & Kunik, M. E. 2010. Quality of Relationships as a Predictor of Psychosocial Functioning in Patients with Dementia. *Journal of Geriatric Psychiatry and Neurology*, 23(2): 109-114.
- 43) Christie, J., Smith, G. R., Williamson, G. M., Lance, C. E., Shoali, T. E., & Silva, L. C. 2009. "Quality of Informal Care Is Multidimensional." *Rehabilitation Psychology* 54(2): 173-181.
- 44) Bartholomew, K., & Horowitz, L. M. 1991. "Attachment styles among young adults." *Journal of Personality and Social Psychology*, 61(2): 226-244.
- 45) Morse, J. Q., Shaffer, D. R., Williamson, G. M., Dooley, W. K., & Schulz, R. 2012. "Models of Self and Others and their Relation to Positive and Negative Caregiving Responses." *Psychology and Aging*, 27(1): 211-218.
- 46) Mangen, D. J., Bengtson, V. L., & Landry, P. H. (Eds.). *Measurement of intervene rational relations*. CA: Sage, 1988.
- 47) Lawrence, R. H., Tenstedt, S. L., & Assmann, S. F. 1998. "Quality of the caregiver-care recipient relationship: Does it offset negative consequences of caregiving for family caregivers?" *Psychology and Aging* 13(1): 150-158.
- 48) 大城トモ子・國吉和子 2009. 「それぞれの介護模様」『地域研究』第 5 号, pp. 95-102.
- 49) Buchanan, R. J., & Huang, C. 2011. "Informal caregivers assisting people with multiple sclerosis: factors associated with the strength of the caregiver/care recipient relationship." *International Journal of MS Care* 13(4): 177-187.
- 50) Dantzer, B. A. 2011. "An analysis of factors that impact the perceptions of strain, burden, and quality of life among primary caregivers of impaired, elderly family members." *Dissertation Abstracts International: Section B: The Sciences and Engineering* 72(6-B): 3379.
- 51) Ball, V., Snow, A. L., Steele, A. B., Morgan, R. O., Davila, J. A., Wilson, N., & Kunik, M. E. 2010. "Quality of Relationships as a Predictor of Psychosocial Functioning in Patients with Dementia." *Journal of Geriatric Psychiatry and Neurology*, 23(2): 109-114.
- 52) Hui, S. K. A., Elliott, T. R., Martin, R., & Uswatte, G. 2011. "Family caregivers' attributions about care-recipient behaviour: Does caregiver relationship satisfaction mediate the attribution-distress relationship?" *British Journal of Health Psychology*, 16(3): 642-659.
- 53) Shim, B., & Duke, V. 2012. "Finding Meaning in the Dementia Caregiving Relationship." *Dissertation Abstracts International: Section B: The Sciences and Engineering* 72(7-B): 3957.
- 54) Crist, J. D., Pasvogel, A., Szalacha, L. A., & Finley, B. A. 2017. "Depression in Family Caregivers of Mexican Descent: Exacerbated by Stress and Mitigated by Mutuality." *Research in Gerontological Nursing*, 10(3): 106-113.
- 55) Benson, Karen M. 2016. "Role Importance, Affectional Solidarity, and Depression Among Familial Caregivers for Older Adults." *Dissertation Abstracts International: Section B: The Sciences and Engineering* 77(1-B)(E).
- 56) Roth, D. L., Ackerman, M. L., Okonkwo, O. C., & Burgio, L. D. 2008. "The Four-Factor Model of Depressive Symptoms in Dementia Caregivers: A Structural Equation Model of Ethnic Differences." *Psychology and Aging* 23(3): 567-576.
- 57) Caputo, J., Pavalko, E. K., & Hardy, M. A. 2016. "The Long-Term Effects of Caregiving on Women's Health and Mortality." *Journal Of Marriage And The Family*, 78(5): 1382-1398.
- 58) Namkung, E. H., Greenberg, J. S., & Mailick, M. R. 2017. "Well-being of Sibling Caregivers: Effects of Kinship Relationship and Race." *The Gerontologist*, 57(4): 626-636.
- 59) Hoefman, R. J., van Exel, J., & Brouwer, W. B. F. 2013. "Measuring the impact of caregiving on informal carers: a construct validation study of the CarerQol instrument." *Health and Quality of Life Outcomes* 11(1): 173.
- 60) Gaugler, J. E., Mittelman, M. S., Hepburn, K., & Newcomer, R. 2009. "Predictors of Change in Caregiver Burden and Depressive Symptoms Following Nursing Home Admission." *Psychology and Aging* 24(2): 385-396.
- 61) Kramer, B. J. 1993. "Marital History and the Prior Relationship as Predictors of Positive and Negative Outcomes among Wife Caregivers." *Family Relations* 42(4): 367.
- 62) Perren, S., Schmid, R., Herrmann, S., & Wettstein, A. 2007. "The impact of attachment on dementia-related problem behavior and spousal caregivers' well-being." *Attachment & Human Development* 9: 163-178.
- 63) Villalobos, B. T., & Bridges, A. J. 2016. "Testing an attribution model of caregiving in a Latino sample: The roles of familismo and the caregiver-care recipient relationship." *Journal of Transcultural Nursing* 27(4): 322-332.
- 64) Garrison-Diehn, C. 2015. "Examining the relationship between reported caregiver empathy and dyadic outcomes: An exploratory conceptual analysis of dementia care." *Dissertation Abstracts International: Section B: The Sciences and Engineering* 76(2-B)(E).
- 65) Feeney, B. C., & Collins, N. L. 2001. "Predictors of caregiving in adult intimate relationships: An attachment theoretical perspective." *Journal of Personality and Social Psychology* 80: 972-994.
- 66) Simpson, J. A., Rholes, W. S., & Nelligan, J. S. 1992. "Support seeking and support giving within couples in an anxiety-provoking situation: The role of attachment styles." *Journal of Personality and*



- Social Psychology*, 62: 434-446.
- 67) Carnelley, K. B., Pietromonaco, P. R., & Jaffe, K. 1996. "Attachment, caregiving, and relationship functioning in couples: Effects of self and partner." *Personal Relationships* 3: 257-277.
- 68) 永江美千代・佐藤弘美・野口美和子 1994. 「介護者による痴呆性老人の生活能力評価に関する研究：E型デイ・サービス利用者を対象として」『千葉大学看護学部紀要』第16巻, pp. 129-133.
- 69) 岡本吉生・山田恵子 2004. 「高齢者虐待における危険因子と介護者－被介護者間の人間関係の特徴：ある刑事事件の鑑定事例の検討から」『日本女子大学紀要 家政学部』第51巻, pp. 15-22.
- 70) National Academies of Sciences, Engineering, and Medicine. *Families caring for an aging America*. Washington, DC: The National Academies Press. 2016.
- 71) Williams, J. L. 2009. "The effects of fear of falling, fear of pain, and activity restriction among informal caregivers of seniors with dementia." *Dissertation Abstracts International: Section B: The Sciences and Engineering* 69(11-B): 7156.
- 72) Ejem, D. B. 2015. "The effects of subjective and objective caregiver burden on the depressive symptomology of a disabled older adult care recipient." *Dissertation Abstracts International: Section A: Humanities and Social Sciences* 76(5-A)(E).
- 73) Ejem, D., Bauldry, S., Bakitas, M., & Drentea, P. 2018. "Caregiver Burden, Care Recipient Depressive Symptomology and Social Exchange: Does Race Matter?" *Journal of Palliative Care* 33(2): 100-108.
- 74) Qualls, S. H., & Williams, A. A. *Caregiver family therapy*. Washington, DC: American Psychological Association, 2013.
- 75) Qualls, S. H. 2016. "Caregiving Families Within the Long-Term Services and Support System for Older Adults." *American Psychologist* 71(4): 283-293.

(指導教員 高橋美保教授)